(様式第10)

浜医大医第4号

令和　4 年　10 月　5 日

厚生労働大臣　殿

開設者名　国立大学法人浜松医科大学
学長　今 野　弘 之

浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和　年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒431-3192　静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
氏名	国立大学法人浜松医科大学　学長　今野弘之

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

浜松医科大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒431-3192　静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
電話(　053　)　435　－　2111

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

(1) 内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注)　1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有

外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科

診療実績

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科

歯科の診療体制

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	循環器科	2	神経科	3	心臓血管外科	4	リハビリテーション科	5	形成外科
6	病理診断科	7	小児外科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37	0	0	0	576	613

(単位:床)

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	402	99	434.6
歯科医師	14	1	14.2
薬剤師	38	0	38
保健師	0	1	0.4
助産師	38	3	40.1
看護師	736	46	768.5
准看護師	3	3	5.3
歯科衛生士	3	0	3
管理栄養士	11	3	13.3

職種	員数
看護補助者	41
理学療法士	23
作業療法士	11
視能訓練士	4
義肢装具士	0
臨床工学士	26
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	43

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	77
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		7
その他の技術員		72
事務職員		160
その他の職員		16

(注)　1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	58	眼科専門医	9
外科専門医	38	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	8	放射線科専門医	15
小児科専門医	26	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	30
産婦人科専門医	24	救急科専門医	3
		合計	264

(注)　1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　(　松山 幸弘　　任命年月日　令和　4　年　4　月　1 日

・平成26年4月1日から平成28年3月31日まで　医療安全管理室長(ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ担当副病院長)
・平成28年4月1日から平成30年3月31日まで　医療安全管理委員会委員長(病院長)
・令和2年4月1日より医療安全管理委員会委員長(病院長)に就任
・令和4年4月1日より医療安全管理委員会委員長(病院長)に再任

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	439.5　人	4.2　人	443.7　人
1日当たり平均外来患者数	1369　人	60.2　人	1429.2　人
1日当たり平均調剤数	723.6　剤		
必要医師数	123.7　人		
必要歯科医師数	3.6　人		
必要薬剤師数	15　人		
必要（准）看護師数	268　人		

（注）　1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.2 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	12 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	316.5 ㎡	病床数	24	床
	［移動式の場合］	台数	2 台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	21 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	413.17 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）　生化学･免疫全自動分析装置･全自動血液検査システム			
細菌検査室	174.7 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）　自動細菌同定感受性装置･自動血液培養装置			
病理検査室	177.1 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）　自動固定包理装置･パラフィン包理ブロック作成装置･ミクロトーム			
病理解剖室	46 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）　排水滅菌システム･固定液作成装置･解剖台			
研究室	541.3 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	（主な設備）　臨床情報検索データベースシステム			
講義室	195 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数　2 室	収容定員	100	人
図書室	61.2 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数　1 室	蔵書数	6200	冊程度

（注）　1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.8 %	逆紹介率	59.3 %

算出根拠			
	A:紹介患者の数	12,952	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,324	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	2,729	人
	D:初診の患者の数	15,713	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長(○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
小島 崇宏	大阪A＆M法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するもの	無	1
桑原 允嗣	静岡県立高等学校元副校長		医療を受ける者	無	2
大磯 義一郎	国立大学法人浜松医科大学		法律に関する見識を有するもの	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 浜松医科大学医学部附属病院ホームページにて公表 https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/iryouannzennkansa.html	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数(人)
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数(人)
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	39
2	筋萎縮性側索硬化症	12	57	特発性拡張型心筋症	44
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	25
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	150	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	28
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	44	66	IgA 腎症	49
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	48	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靱帯骨化症	97
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	66
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	13
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	32	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	24
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	16
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	47
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	142
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	24	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	78
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	91
31	ベスレムミオパチー	1	86	肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	26
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬（汎発型）	16	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	16
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	8	96	クローン病	199
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	214
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	175	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	109	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	63	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	22	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	15	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名			疾　　患　　名	
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ･シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	12
113	筋ジストロフィー	8	163	特発性後天性全身性無汗症	10
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	2	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス･ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル･ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須･ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン･ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット･ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ＡＴＲ－Ｘ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー･ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン･シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド･トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー･ウィリ症候群	3
144	レノックス･ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング･シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣･片麻痺･てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	ＰＣＤＨ19関連症候群	0	202	スミス･マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ･クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ･ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	3	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	26

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（ＳＲ）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β－ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族Ｌ－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／ＬＭＸ１Ｂ関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	8

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	117
合計患者数（人）	2478

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・医療安全対策加算1
・「注 11」に規定する入院栄養管理体制加算	・感染防止対策加算1
・特定機能病院入院基本料(13対1)	・感染防止対策地域連携加算
・臨床研修病院入院診療加算　基幹型	・抗菌薬適正使用支援加算
・救急医療管理加算	・患者サポート体制充実加算
・超急性期脳卒中加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・診療録管理体制加算1	・ハイリスク分娩管理加算
・医師事務作業補助体制加算2(30対1)	・入退院支援加算2
・急性期看護補助体制加算(5割以上25対1)	・地域連携診療計画加算
・急性期看護補助体制加算(夜間100対1)	・入院時支援加算
・急性期看護補助体制加算(夜間看護体制加算)	・総合評価加算
・看護職員夜間配置加算(12対1)配置加算1	・呼吸ケアチーム加算
・看護補助加算2(50対1){精神}	・後発医薬品使用体制加算1
・療養環境加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・重症者等療養環境特別加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・無菌治療室管理加算1	・データ提出加算2
・無菌治療室管理加算2	・提出データ評価加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による治療の場合)	・認知症ケア加算2
・緩和ケア診療加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・個別栄養食事管理加算	・精神疾患診療体制加算
・精神科身体合併症管理加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・精神科リエゾンチーム加算	・地域医療体制確保加算
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料2
・がん診療連携拠点病院加算	・特定集中治療室管理料　小児加算
・栄養サポートチーム加算	・特定集中治療室管理料　「注1」に掲げる算定上限日数

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・早期離床・リハビリテーション加算	・
・ハイケアユニット入院医療管理料	・
・新生児特定集中治療室管理料1	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料2	・
・小児入院医療管理料　プレイルーム加算	・
・小児入院医療管理料　無菌治療管理加算2	・
・小児入院医療管理料　養育支援体制加算	・
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
・歯科外来診療環境体制加算2	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・外来放射線照射診療料
・高度難聴指導管理料	・外来腫瘍化学療法診療料1
・外来栄養食事指導料(注2)	・連携充実加算
・外来栄養食事指導料(注3)	・ニコチン依存症管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3に規定する腎代替療法実績加算	・開放型病院共同指導料
・糖尿病合併症管理料	・がん治療連携計画策定料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん治療連携管理料
・がん患者指導管理料イ(旧1)(旧がん患者カウンセリング料)	・外来がん患者在宅連携指導料
・がん患者指導管理料ロ(旧2)	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ハ(旧3)	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・小児運動器疾患指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・腎代替療法指導管理料	・遺伝学的検査
・一般不妊治療管理料	・流産検体を用いた 絨毛染色体検査
・生殖補助医療管理料1	・骨髄微小残存病変量測定
・院内トリアージ実施料	・BRCA1／2遺伝子検査
・夜間休日救急搬送医学管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・救急搬送看護体制加算	・先天性代謝異常症検査
・外来リハビリテーション診療料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)	・画像診断管理加算1
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・画像診断管理加算3
・HPV核酸検出	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・CT撮影及びMRI撮影
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・冠動脈CT撮影加算
・国際標準検査管理加算	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・遺伝カウンセリング加算	・大腸CT撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・乳房MRI撮影加算
・植込型心電図検査	・頭部MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャルトウォーキングテスト	・肝エラストグラフィ加算
・胎児心エコー法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ヘッドアップティルト試験	・外来化学療法加算1
・人工膵臓	・連携充実加算
・皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・コンタクトレンズ検査料1	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・小児食物アレルギー負荷検査	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・リンパ浮腫複合的治療料
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)	・集団コミュニケーション療法料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・各リハビリテーションの初期加算
・経気管支凍結生検法	・児童思春期精神科専門管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法1	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・精神科作業療法	・羊膜移植術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・多血小板血漿処置	・耳管用補綴材挿入術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・人工腎臓慢性維持透析を行った場合1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型(拡大副鼻腔手術)
・導入期加算3	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・一酸化窒素吸入療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚移植術(死体)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腟腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下直腸切除・切断術(切断術)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・後縦靭帯骨化症(前方進入によるもの)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・経皮的冠動脈形成術
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・経皮的冠動脈ステント留置術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・不整脈手術　左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・磁気ナビゲーション加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術　リードレスペースメーカーの場合	・同種死体腎移植術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・生体腎移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・膀胱水圧拡張術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・補助人工心臓	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的大動脈遮断術	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ダメージコントロール手術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術	・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・体外衝撃波胆石破砕術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・体外衝撃波膵石破砕術	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・輸血管理料Ⅰ	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・輸血適正使用加算	・手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・歯周組織再生誘導手術
・コーディネート体制充実加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・自己生体組織接着剤作成術	・クラウン・ブリッジ維持管理料 (旧:補綴物維持管理料)
・自己クリオプレシピテート作製術	・CAD/CAM冠
・同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)の1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療(直線加速器による放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算・その他のもの	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・病理診断管理加算2	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理･臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部：血液内科カンファレンス（週1回）、ハートチーム（TAVI)･循環器内科カンファレンス（週1回） 病理診断科：臨床研修CPC（病理診断科主催）10回，CPC･PMC（病理学講座主催）10回，小児がんカンファレンス（小児科主催）12回	
剖検の状況	剖検症例数（例）	14例
	剖検率（%）	5.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
皮膚洗浄剤による創傷治癒への影響	山下 寛奈	基礎看護学	429,000	補 委	日本学術振興会
UCP4発現誘導による脳虚血耐性獲得メカニズムの解明と新たな脳梗塞治療法への挑戦	福司 康子	イノベーション光医学研究室	1,300,000	補 委	日本学術振興会
上斜筋麻痺における下直筋後転術の治療効果に影響を与える因子に関する検討	古森 美和	眼科	195,000	補 委	日本学術振興会
妊娠糖尿病既往のある女性の分娩後の糖尿病発症を予防するチーム医療のあり方	安田 孝子	臨床看護学	910,000	補 委	日本学術振興会
小児期の感覚過敏性の脳神経学的基盤と言語発達に与える影響について	安間 裕子	子どものこころの発達研究センター	1,040,000	補 委	日本学術振興会
急性腎障害からの遠隔臓器障害に対する善玉経路としての神経免疫応答の検証	安田 日出夫	第一内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
アドレナリン気管内投与による羊水塞栓症の救命法の開発	磯村 直美	産婦人科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤術後2型エンドリークによる瘤増大を予測予防するための革新的研究	海野 直樹	外科学第二	1,040,000	補 委	日本学術振興会
放射線治療効果予測を目指す分子標的画像法の開発－DNA修復機構を対象として－	間賀田 泰寛	分子病態ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	5,330,000	補 委	日本学術振興会
DNAミスマッチ修復正常型高頻度変異大腸がんのDNAポリメラーゼ校正機能解析	岩泉 守哉	臨床検査医学	1,560,000	補 委	日本学術振興会
脳内活性化ミクログリアのマルチモダル動態解析による次世代うつ病治療シーズの創出	亀野 陽亮	精神医学	910,000	補 委	日本学術振興会
二次性リンパ浮腫の病態解明と新しい薬物治療法の開発	佐野 真規	第二外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会

単純ヘルペスチミジンキナーゼ遺伝子導入Muse細胞を用いた肺癌脳転移新規治療戦略	鮫島　哲朗	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
メンブレンパッチ法による術中の分子生物学的迅速解析法の確立	山口　裕貴	耳鼻咽喉科	650,000	補委	日本学術振興会
CAC発癌における間葉系幹細胞の役割の解明	山本　真義	外科学第二	1,170,000	補委	日本学術振興会
チロシンキナーゼ阻害剤による動脈硬化促進に関わるバイオマーカーの網羅的探索研究	小野　孝明	第三内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
PACを用いた脊髄再生の検討	松山　幸弘	整形外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
利尿薬による糸球体濾過圧およびアンジオテンシノーゲン濾過量の変動を可視化する	石垣　さやか	血液浄化療法部	390,000	補委	日本学術振興会
インテグリン阻害剤を応用した新たな肝線維症治療薬の開発	則武　秀尚	内科学第二	910,000	補委	日本学術振興会
間質性膀胱炎の診断に有用な尿中バイオマーカーの探索	大塚　篤史	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
ゲノム解析による潰瘍性大腸炎のサイトメガロウイルス薬剤耐性株再活性化の治療戦略	大澤　恵	光学医療診断部	780,000	補委	日本学術振興会
赤血球不規則抗体陽性例における抗原陽性血輸血の前方向的研究と登録システムの構築	竹下　明裕	輸血・細胞治療部	1,040,000	補委	日本学術振興会
反芻思考に焦点づけた認知行動療法の自閉スペクトラム症への効果とその脳基盤の検討	竹市　峻	精神科神経科	520,000	補委	日本学術振興会
血中循環腫瘍細胞の新規検出方法の開発と臨床応用	竹内　裕也	外科学第二	5,330,000	補委	日本学術振興会
間質性肺炎を標的とした膠原病に対する新規免疫複合療法の開発	中村　祐太郎	第二内科	910,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍に対する間葉系幹細胞を用いた自殺遺伝子療法	天野　慎士	脳神経外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
発達精神医学におけるプレシジョン・メディシンの展開	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	4,160,000	補委	日本学術振興会

アトピー性皮膚炎における表皮角化細胞のガレクチン7産生機構とその意義	島内　隆寿	皮膚科	650,000	補委	日本学術振興会
炎症性皮膚疾患における皮膚浸潤T細胞のMDR1発現とステロイド抵抗性	藤山　俊晴	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会
Toll様受容体を介した粘液線毛輸送系の促進機序の解明と慢性気道疾患への治療応用	藤澤　朋幸	第二内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
NAFLDから発生した肝細胞癌の生物学的特徴の解明と新規治療標的の探索	武田　真	第二外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
長期予後の改善を目標とした新たな周術期強化栄養運動プログラムの開発	平松　良浩	周術期等生活機能支援	1,300,000	補委	日本学術振興会
トリプトファン代謝物の網羅的解析による免疫療法のバイオマーカー開発	柄山　正人	化学療法部	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂質メディエーターをターゲットとしたアトピー性皮膚炎の病態解明と創薬	本田　哲也	皮膚科学	910,000	補委	日本学術振興会
年齢による中長期歩行改善の違い一成人脊柱変形に対する矯正固定術後の検討	有馬　秀幸	整形外科	910,000	補委	日本学術振興会
ビタミンD欠乏が脳動脈瘤の破裂に及ぼす影響とメカニズムの検討	鈴木　興太	麻酔科蘇生科	130,000	補委	日本学術振興会
乳幼児期から学齢期の睡眠パターンとその遷移が認知発達に与える影響	鈴木　晴香	子どものこころの発達研究センター	910,000	補委	日本学術振興会
がん免疫療法の治療効果早期判定を目的としたパーフォリン標的画像診断法の開発	鈴木　千恵	分子病態ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	1,300,000	補委	日本学術振興会
肥満喘息の難治化メカニズムと新規治療基盤の創出	鈴木　勇三	内科学第二	1,170,000	補委	日本学術振興会
リハビリテーション患者の心機能評価と運動昇圧反射に基づいた運動負荷量の検討	山内　克哉	リハビリテーション部	1,170,000	補委	日本学術振興会
集団療法型MANTRAによる神経性やせ症の改善効果とその脳内メカニズムの検討	磯部　智代	精神科神経科	390,000	補委	日本学術振興会
拒食症からの回復過程の脳分子メカニズムの解明：PETとMRIの統合的解析	横倉　正倫	精神医学	1,430,000	補委	日本学術振興会
分子状水素吸入による人工心肺後の脳障害軽減・血管内皮グリコカリックス保護効果	加藤　孝澄	麻酔・蘇生学	1,820,000	補委	日本学術振興会

妊婦のやせに伴う胎生期発育不全が児の認知神経機能に及ぼす影響:脳画像による検討	岩渕　俊樹	子どものこころの発達研究センター	650,000	補委	日本学術振興会
定量位相顕微鏡技術を用いた新規循環腫瘍細胞検出技術の臨床応用	菊池　寛利	第二外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
近赤外分光法を用いた脳および重要臓器のオートレギュレーション評価	栗田　忠代士	手術部	1,430,000	補委	日本学術振興会
免疫寛容の誘導を利用した喘息に対する経鼻投与型樹状細胞ワクチンの開発	古橋　一樹	検査部	1,040,000	補委	日本学術振興会
グリコカリックス解析による出血性ショックに対する水素吸入療法の開発	御室　総一郎	集中治療部	780,000	補委	日本学術振興会
がん病態時における血中miRNAに基づくオピオイドの至適薬物療法の構築	佐藤　聖	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会
薬剤感受性に基づく小児白血病の新たな治療標的の解明	坂口　公祥	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
フレイル・サルコペニアがICD, CRT植え込み患者に与える影響の検討	成瀬　代士久	内科学第三	1,040,000	補委	日本学術振興会
エストロゲンによるNrf2活性化に着目した閉経後メタボリック症候群の治療戦略	成味　恵	周産母子センター	780,000	補委	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎におけるトリプトファン代謝機構の解明と新規治療法の創製	石川　竜司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	780,000	補委	日本学術振興会
がん病態時におけるフェンタニルの鎮痛効果と血液中のサイトカイン濃度との関係解析	石田　卓矢	薬剤部	1,690,000	補委	日本学術振興会
脊髄虚血による対麻痺のモニター法と遅発性麻痺への新しい管理法の開発	川島　信吾	麻酔・蘇生学	1,040,000	補委	日本学術振興会
抗菌薬による腸内フローラの変化が及ぼすCYP3A4代謝薬剤の薬効・安全性への影響	八木　達也	薬剤部	1,040,000	補委	日本学術振興会
グリコカリックスの敗血症重症化における基礎的検討	八木原　正浩	麻酔科蘇生科	130,000	補委	日本学術振興会
歯髄幹細胞を用いた脳動脈瘤破裂予防の研究	牧野　洋	麻酔科蘇生科	390,000	補委	日本学術振興会

統合失調症者における喫煙の自己治療作用へのα7ニコチン性受容体と神経炎症の関与	和久田　智靖	精神科神経科	1,170,000	補委	日本学術振興会
マルチコプターと人工知能を用いた自律救急災害診療	齊藤　岳児	救急部	1,170,000	補委	日本学術振興会
ACPに基づく意思決定支援のための地域医療・介護多職種対象教育プログラムの開発	井上　真智子	地域家庭医療学	1,560,000	補委	日本学術振興会
食道癌周術期患者に対する客観的予後予測に基づく理学療法戦略の構築	髙尾　昌資	リハビリテーション部	520,000	補委	日本学術振興会
皮膚弾力に着目した新しいリンパ浮腫治療戦略の開発	横山　由里奈	リハビリテーション部	1,300,000	補委	日本学術振興会
質量分析イメージングを用いた感染性大動脈瘤の診断	津田　和政	外科学第一	1,300,000	補委	日本学術振興会
EMDRによる心的外傷後ストレス障害からの回復の脳基盤-自己知覚に着目して-	井上　淳	児童青年期精神医学	1,560,000	補委	日本学術振興会
大腸癌におけるPolyadenylation関連遺伝子の検討	濱屋　寧	内科学第一	1,300,000	補委	日本学術振興会
母親学級ベースの虐待予防プログラムの開発と効果検討ー愛着の世代間伝達に着目してー	福元　優子	精神科神経科	2,340,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌叢の変化に着目したPPI投与が及ぼす薬物代謝能への影響の評価	田中　達也	薬剤部	1,820,000	補委	日本学術振興会
NKG2D、NKG2D ligand発現制御による円形脱毛症の新規治療の開発	伊藤　泰介	皮膚科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
結核に対するシアリダーゼを用いた新規ナノ粒子ワクチンの開発	榎本　紀之	保健管理センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
肺血管内皮細胞の低酸素応答による線維化促進の機序解明と治療への応用	乾　直輝	臨床薬理学	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん悪液質における中枢機能障害の画像科学による病態機能解明	間賀田　泰寛	分子病態イメージング研究室	1,950,000	補委	日本学術振興会
ナノスーツ法を用いた血中循環HPV感染細胞のリアルタイムモニタリング法の確立	喜夛　淳哉	耳鼻咽喉科	390,000	補委	日本学術振興会
セロトニン-オキシトシン相互作用の多角的検討:自閉症中核症状の治療シーズ創出	桑原　斉	精神医学	6,760,000	補委	日本学術振興会

PK-PD解析に基づく自己免疫疾患に対する低分子分子標的薬の投与設計法の確立	見野　靖晃	薬剤部	1,430,000	補委	日本学術振興会
浸潤性脳腫瘍に対する分子標的薬と遺伝子治療との併用療法とその腫瘍微小環境の解明	黒住　和彦	脳神経外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌の血中循環腫瘍細胞による上皮間葉移行モニタリング法の確立	今井　篤志	耳鼻咽喉科	390,000	補委	日本学術振興会
血管周囲脂肪細胞による血管壁炎症に着目した腹部大動脈瘤形成の機序解明と治療戦略	佐々木　健	器官組織解剖学	1,690,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌におけるエピゲノム動態のリアルタイムモニタリング法の確立	三澤　清	耳鼻咽喉科	390,000	補委	日本学術振興会
皮膚障害発現機序の解明によるボリコナゾールの至適投与設計法の開発	山田　尚広	薬剤部	1,560,000	補委	日本学術振興会
抗EGFR抗体薬の血中動態・糖鎖修飾の定量的評価に基づくがん治療効果の個人差解明	柴田　海斗	薬剤部	1,170,000	補委	日本学術振興会
ナノスーツ法による新しい精子評価方法の確立	宗　修平	生殖周産期医学	1,170,000	補委	日本学術振興会
多因子疾患としての性分化疾患・生殖機能障害発症機序の解明	緒方　勤	医化学	14,820,000	補委	日本学術振興会
診断閾下の自閉スペクトラム特性をもつ女児の早期徴候の探索ー縦断的出生コホート研究	西村　倫子	子どものこころの発達研究センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん遺伝子パネル検査の外部精度評価スキームの戦略的実践によって検査の質向上を図る	前川　真人	臨床検査医学	1,040,000	補委	日本学術振興会
日本人非喫煙者におけるER多型と肺腺癌リスクとの関連	陶　弘	腫瘍病理学	1,300,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病での神経生存とミクログリア極性変化の多角的可視化と治療応用	尾内　康臣	生体機能イメージング研究室	4,940,000	補委	日本学術振興会
植物性エストロゲンによる脳動脈瘤形成予防の解明	平松　久弥	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会

植物性エストロゲン摂取による脳動脈瘤の破裂予防効果とメカニズムの検討	木村　哲朗	麻酔科蘇生科	1,950,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂における脳動脈瘤壁への鉄集積の役割	神尾　佳宣	脳神経外科	910,000	補委	日本学術振興会
ステロイド筋症を非侵襲的に捉えるための表面筋電図の応用	長島　正明	リハビリテーション部	130,000	補委	日本学術振興会
羊水塞栓症の遺伝的リスク背景ならびに発症機序の解明：新たな治療戦略を目指して	伊東　宏晃	産婦人科学	4,290,000	補委	日本学術振興会
妊婦のエネルギー摂取不足に起因する成長後の児の脂肪肝発症リスク軽減を目指して	幸村　友季子	産婦人科	1,040,000	補委	日本学術振興会
若年者の後天共同性内斜視の原因と治療に関する研究	佐藤　美保	眼科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
肥大型心筋症の臨床予後予測モデルの構築	秋田　敬太郎	第三内科	260,000	補委	日本学術振興会
4D flow MRIによる血流解析を利用した、心筋梗塞に伴う左室内血栓症の予測	諏訪　賢一郎	内科学第三	1,560,000	補委	日本学術振興会
わが国のX連鎖性網膜色素変性患者と女性キャリアのQOL向上を目的とした臨床研究	倉田　健太郎	眼科	1,950,000	補委	日本学術振興会
わが国の難治性未診断眼疾患に対する新しい疾患概念の確立と診断法の開発に関する研究	堀田　喜裕	眼科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
アプレピタントと主代謝物の血中動態及び臨床効果に及ぼすがん悪液質の影響	鈴木　祐介	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
がん患者での血中ナルデメジン濃度に及ぼす薬物動態関連タンパクの遺伝子多型の影響	中津川　瑛美	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
ペムブロリズマブ血中濃度とサイトカイン・ケモカイン変動によるirAEs発症の予測	清水　穂香	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
血中トシリズマブ濃度に基づいたCYP3A活性変動の定量評価と薬物間相互作用の解明	望月　啓志	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会

小細胞肺がんの運命制御転写因子の相互排他性に注目した新規治療標的の探索	井上　裕介	臨床薬理学	2,340,000	補委	日本学術振興会
無痛分娩をうけた母児の長期予後～懸念の払しょくからアドバンテージの探索へ	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	2,730,000	補委	日本学術振興会
アクアポリン2を介した甲状腺ホルモンの体液調節機構の研究	松下　明生	内科学第二	1,430,000	補委	日本学術振興会
精しょうの質を可視化する新しい男性不妊症診断法および精子保護剤の開発	村林　奈緒	生殖周産期医学	2,340,000	補委	日本学術振興会
近赤外光による3次元的画像再構成アルゴリズム構築と乳癌の新規バイオマーカーの創生	芳澤　暢子	放射線科診療科群	2,340,000	補委	日本学術振興会
性分化疾患・生殖機能障害における葉酸とメチル化変動の関係	小野　裕之	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
腸管筋線維芽細胞を標的とした腸炎関連性発がんの新規診断マーカー、治療法の探索	川村　崇文	外科学第二	1,560,000	補委	日本学術振興会
4D-flow MRIを用いたステントグラフト術後瘤径拡大の新しい予測法の開発	片橋　一人	感染対策室	910,000	補委	日本学術振興会
Interaction of genetic risk and early body mass index changes on neurodevelopmental disorders among Japanese children	Rahman Md. Shafiur	子どものこころの発達研究センター	2,730,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化マウスを用いたCOPDモデルの作成とCOPDの新規治療戦略の確立に向けて	安井　秀樹	内科学第二	1,690,000	補委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤壁の脈管新生の影響から導くPDE阻害薬の動脈瘤増大・破裂予防への応用	犬塚　和徳	外科学第二	1,300,000	補委	日本学術振興会
腎癌のIO drugおよびTKI併用療法に対する耐性獲得機構解明と新規治療法開発	三宅　秀明	泌尿器科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
終末期の間質性肺炎患者に対する緩和ケア確立に関する研究―呼吸困難に対する介入―	須田　隆文	内科学第二	2,470,000	補委	日本学術振興会

重症筋無力症根治に向けた革新的創薬基盤の構築	清水　広介	分子病態ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ	8,580,000	補委	日本学術振興会
がん病態時における末梢性μオピオイド受容体拮抗薬による臨床効果の個人差要因の解明	川上　純一	薬剤部	1,560,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病の微細運動における行動判定テストの開発とDBS効果発現に関する研究	浅川　哲也	脳神経外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
シンデカンノックアウトラットにおける敗血症性脳障害の機序の解明	中島　芳樹	麻酔・蘇生学	910,000	補委	日本学術振興会
羊水塞栓症の病態解明のための全身主要臓器の特異的反応の検討	田村　直顕	周産母子センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
低温誘導性RNA結合タンパクを基軸とした肺線維症の病態解明と新規治療の開発	穂積　宏尚	内科学第二	1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病患者における身体活動量からみた腎機能低下機序の解明：新たな治療戦略	平野　裕真	リハビリテーション部	2,210,000	補委	日本学術振興会
食道切除後術患者のサルコペニア予防を目的としたモバイルヘルスプログラムの開発	本家　淳子	周術期等生活機能支援学	1,560,000	補委	日本学術振興会
医学教育に潜むジェンダー・バイアスによる医師のアイデンティティ形成への影響	松井　智子	地域家庭医療学	910,000	補委	日本学術振興会
大腸上皮細胞を介したIL-22とIL-33のクロストークが粘膜免疫へ及ぼす影響	杉本　健	内科学第一	1,040,000	補委	日本学術振興会
人工心肺中における脳梗塞の病態の解明：水素ガスによる二次性脳損傷予防	大橋　雅彦	麻酔・蘇生学	1,170,000	補委	日本学術振興会
脳画像を基盤とする認知症血液バイオマーカーの国際検証研究	尾内　康臣	生体機能イメージング	2,990,000	補委	日本学術振興会
成人例・慢性例の神経性やせ症に対しても有効な新たな治療法の開発	望月　洋介	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会
組織酸素飽和度測定器による重症虚血肢に対する必要十分な術中戦略の確立	嘉山　貴文	外科学第二	2,340,000	補委	日本学術振興会
DPP4阻害薬によるシスプラチンの抗癌作用への影響と腎障害軽減機序の解明	岩倉　考政	内科学第一	2,730,000	補委	日本学術振興会
羊水塞栓症における血液凝固障害の病態解明：早期診断法の開発に向けて	小田　智昭	産科婦人科	1,820,000	補委	日本学術振興会

周産期における肝取り込みトランスポーターの活性評価による甲状腺ホルモンの挙動解析	内藤　隆文	薬剤部	1,560,000	補 委	日本学術振興会
トラスツズマブ腹腔内投与を用いた胃がん腹膜播種に対する新規治療法の開発	加藤　真也	薬剤部	470,000	補 委	日本学術振興会
特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出ー人工知能（AI）診断システムと新規バイオマーカーの開発ー	須田　隆文	内科学第二	12,497,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19 感染による血栓症発症・増悪機転の解明と治療介入の可能性の解明	浦野　哲盟	薬理学	39,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非病変蛋白脳画像と液性バイオマーカーを取り入れた早期認知症の層別化研究	尾内　康臣	生体機能イメージング研究室	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん細胞特異的に発現するRNA結合蛋白質を標的としたがん治療薬の探索	椙村　春彦	腫瘍病理学	15,092,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療事故に関連した医療従事者に対する対応等に関する研究	**大磯　義一郎**	**法学**	150,252	補 委	厚生労働省
性分化・性成熟異常を伴う内分泌症候群（プラダー・ウィリ症候群・ヌーナン症候群を含む）の診療水準向上を目指す調査研究	**緒方　勤**	**医化学**	1,626,000	補 委	厚生労働省
災害発生時の分野横断的かつ長期的なマネジメント体制構築に資する研究	**尾島　俊之**	**健康社会医学**	2,697,000	補 委	厚生労働省
地域保険における保健所に求められる役割の明確化に向けた研究	**尾島　俊之**	**健康社会医学**	1,038,000	補 委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	**須田　隆文**	**内科学第二**	4,984,000	補 委	厚生労働省
地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究	**宮入　烈**	**小児科学**	2,400,000	補 委	厚生労働省
脳移行性経皮吸収ペプチドを用いたアルツハイマー病治療薬の前臨床試験	尾内　康臣	生体機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究室	65,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

大動脈外科周術期の脊髄虚血障害発生防止目的で応用されている運動誘発電位の精度と簡便性を向上する経食道電気刺激用の電極開発	椎谷　紀彦	外科学第二	12,935,270	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自閉症治療薬シード化合物の探索	山岸　覚	器官組織解剖学	1,800,000	(補) 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010(IntReALL SR 2010) 第一再発小児急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第III相国際共同臨床研究	坂口　公祥	小児科学講座	0円	補 (委)	国立大学法人三重大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
静脈血栓塞栓症における非ビタミンK阻害経口抗凝固薬治療の前向き追跡研究	海野　直樹	外科学第二講座	291,600円	補 (委)	国立大学法人三重大学医学部附属病院
再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究（JFMC46-1201）	倉地　清隆	外科学第二講座	0円	補 (委)	公益財団法人がん集学的治療研究財団
続発性（二次性）リンパ浮腫患者に対するインドシアニングリーン蛍光リンパ管造影のリンパ浮腫診断ならびにリンパ管－静脈吻合時の有用性についての医師主導治験（第III相試験 ）	太田　悠介	形成外科	0円	補 (委)	国立大学法人千葉大学
高リスク筋層非浸潤性膀胱癌に対するPDD-TURによる残存腫瘍減少効果の検討	三宅　秀明	泌尿器科学	0円	補 (委)	国立大学法人山口大学
再発又は難治性のCD30陽性皮膚原発悪性リンパ腫を対象としたブレンツキシマブ ベドチンの有効性及び安全性を確認する多施設共同第II相医師主導治験	島内　隆寿	皮膚科学講座	0円	補 (委)	国立大学法人岡山大学病院
EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるアファチニブからオシメルチニブへの逐次投与の有効性を評価する多施設共同前向き観察研究（Gio-Tag Japan）	須田　隆文	内科学第二講座	0円	補 (委)	宝塚市立病院
Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive（EGFRm+）進行非小細胞肺がん（NSCLC）初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究-Reiwa-	須田　隆文	内科学第二講座	44,000円	補 (委)	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
非小細胞肺癌におけるフルルビプロフェンアキセチル周術期投与による術後再発予防効果を検証するための多施設共同ランダム化第II相比較試験（FLAX試験）	船井　和仁	外科学第一講座	0円	補 (委)	国立病院機構横浜医療センター
先天性代謝異常症患者を対象とした健康関連QOL調査（IEM-QOL）	福田　冬季子	小児科学講座	11,000円	補 (委)	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	須田　隆文	内科学第二講座	320,000円	補 ○委	国立大学法人東海国立大学機構（名古屋大学）
高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験	前川　裕一郎	内科学第三講座	0円	補 ○委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
食物アレルギーの長期予後と予後予測因子を解明するバイオマーカーの検討	夏目　統	小児科学講座	360,000円	補 ○委	国立病院機構三重病院
CRP遺伝子多型と食道がんリンパ節転移に関する多施設共同後ろ向き観察研究	竹内　裕也	外科学第二講座	66,000円	補 ○委	国立大学法人秋田大学
ヨード密度値を用いたHistogram analysisによる膵臓癌化学療法治療効果予測に関する研究	五島　聡	放射線診断学・核医学講座	0円	補 ○委	国立大学法人東海国立大学機構
心不全増悪入院患者におけるアンジオテンシン・ネプリライシン阻害薬の研究（PREMIER study）	前川　裕一郎	内科学第三講座	0円	補 ○委	国立大学法人佐賀大学医学部附属病院
間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎患者を対象とした肺病変の進行を規定するバイオマーカー探索研究	穂積　宏尚	内科学第二講座	110,000円	補 ○委	国立大学法人長崎大学
浜松市児童青年期メンタルヘルス支援人材育成事業業務委託	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	6,000,000円	補 ○委	浜松市
スマート治療室における患者情報統合モニター上にデータ表示可能な、外科医の指先や鏡視下手術鉗子ならびにロボットアーム先端に装着可能な小型組織オキシメーター温度センサーの開発	海野　直樹	外科学第二講座	36,119,190円	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
三次元像フローサイトメトリー細胞診による血中循環腫瘍細胞の質的診断法の開発	菊池　寛利	外科学第二講座	12,462,450円	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GF01)による自閉スペクトラム症(ASD)の診断能に関する多施設共同試験	土屋　賢治	子どものこころの発達研究センター	6,500,000円	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食中毒・呼吸器疾患ウイルスの高感度かつ迅速検出技術の開発	鈴木　哲朗	ウイルス・寄生虫学講座	5,200,000円	補 ○委	国立大学法人静岡大学
地域医療構想の推進に係るデータ分析等業務	小林　利彦	医療福祉支援センター	1,200,000円	補 ○委	静岡県
Tokai Network for Global Leading Innovation（Tongali）	山本　清二	産学連携・知財活用推進センター	2,499,900円	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
イメージング質量分析による動態評価技術の新規モダリティ薬剤への適応展開	瀬藤　光利	細胞分子解剖学講座	29,900,000円	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人発症スチル病（AOSD）に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩／クエン酸第一鉄ナトリウム（5-ALA HCL/SFC）投与の医師主導治験	小川　法良	第三内科診療科群	1,950,000円	補 ○委	国立大学法人長崎大学

計 172

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	岩倉 考政	第一内科	Prevalence of neural epidermal growth factor-like 1- and exostosin 1/exostosin 2-associated membranous nephropathy: a single-center retrospective study in Japan.	Scientific reports 2022.02	Original Article
2	大橋 温	第一内科	Salt intake causes B-type natriuretic peptide elevation independently of blood pressure elevation in the general population without hypertension and heart disease.	Medicine 2021.05	Original Article
3	田村 智	第一内科	Prevalence of UL97 gene mutations and polymorphisms in cytomegalovirus infection in the colon associated with or without ulcerative colitis.	Scientific reports 2021.07	Original Article
4	大場 健司	第二内科	Clinical outcomes of 34 patients with resistance to thyroid hormone beta: a twenty-year experience in Japan.	Endocrine Journal 2022.02	Original Article
5	井上 裕介	第二内科	Extracellular signal-regulated kinase mediates chromatin rewiring and lineage transformation in lung cancer.	eLife 2021.06	Original Article
6	榎本 紀之	第二内科	Diagnostic and prognostic significance of serum angiopoietin-1 and -2 concentrations in patients with pulmonary hypertension.	Scientific Reports 2021.07	Original Article
7	榎本 紀之	第二内科	Prospective nationwide multicentre cohort study of the clinical significance of autoimmune features in idiopathic interstitial pneumonias.	Thorax 2022.02	Original Article
8	川田 一仁	第二内科	Mac-2-binding protein glycan isomer predicts all malignancies after sustained virological response in chronic hepatitis C.	Hepatol Commun 2022.03	Original Article

9	中村　祐太郎	第二内科	Prognostic and Clinical Value of Cluster Analysis in Idiopathic Pleuroparenchymal Fibroelastosis Phenotypes.	Journal of clinical medicine 2021.04	Original Article
10	藤澤　朋幸	第二内科	Prednisolone and tacrolimus versus prednisolone and cyclosporin A to treat polymyositis/dermatomyositis-associated ILD: A randomized, open-label trial.	RESPIROLOGY 2021.04	Original Article
11	藤澤　朋幸	第二内科	Radiological pleuroparenchymal fibroelastosis-like lesion in idiopathic interstitial pneumonias.	Respiratory research 2021.11	Original Article
12	鈴木　勇三	第二内科	Combined assessment of the GAP index and body mass index at antifibrotic therapy initiation for prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis.	Scientific reports 2021.09	Original Article
13	鈴木　勇三	第二内科	Involvement of autophagy in exacerbation of eosinophilic airway inflammation in a murine model of obese asthma.	Autophagy 2022.01	Original Article
14	鈴木　勇三	第二内科	Switching antifibrotics in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: a multi-center retrospective cohort study.	BMC pulmonary medicine 2021.07	Original Article
15	穂積　宏尚	第二内科	Acute exacerbation of rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease: mortality and its prediction model.	Respiratory research 2022.03	Original Article
16	穂積　宏尚	第二内科	Clinical Significance of Cold-Inducible RNA-Binding Protein in Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	Chest 2021.12	Original Article
17	諏訪　賢一郎	第三内科	Hemodynamic change in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy before and after alcohol septal ablation using 4D flow magnetic resonance imaging: a retrospective observational study.	BMC cardiovascular disorders 2021.04	Original Article
18	成瀬　代士久	第三内科	Comparison of delivery catheter-based and stylet-based right ventricular lead placement at the right ventricular septum under fluoroscopic guidance judged by cardiac CT (Mt. FUJI): a study protocol for the Mt. FUJI randomised controlled trial.	BMJ open 2021.05	Original Article
19	成瀬　代士久	第三内科	The prognostic value of J-wave pattern for recurrence of ventricular tachycardia after catheter ablation in patients with myocardial infarction.	Pacing and clinical electrophysiology : PACE 2021.04	Original Article
20	前川　裕一郎	第三内科	Percutaneous transluminal septal myocardial ablation: past, present, and future.	Journal of cardiology 2021.12	Original Article

21	永田　泰之	第三内科	Correlation between IP-10/CXCL10 levels and response to lenalidomide plus low-dose dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma.	International Journal of Myeloma 2021.04	Original Article
22	山末　英典	精神科神経科	Effect of a novel nasal oxytocin spray with enhanced bioavailability on autism: a randomized trial.	Brain 2022.01	Original Article
23	石川　貴充	小児科	Hemodynamic changes in neonates born to mothers with Graves' disease.	Endocrine 2021.04	Original Article
24	石川　貴充	小児科	The association between congenital heart disease and small for gestational age with regard to the prevalence and outcomes.	Acta Paediatr 2021.04	Original Article
25	藤澤　泰子	小児科	Intrauterine Hyponutrition Reduces Fetal Testosterone Production and Postnatal Sperm Count in the Mouse.	Journal of the Endocrine Society 2022.02	Original Article
26	高梨　裕典	第一外科	Decreased sphingomyelin (t34:1) is a candidate predictor for lung squamous cell carcinoma recurrence after radical surgery: a case-control study.	BMC cancer 2021.11	Original Article
27	船井　和仁	第一外科	Usefulness of a temporary shunt by cannulation during superior vena cava combined resection.	General thoracic and cardiovascular surgery 2022.03	Original Article
28	菊池　寛利	第二外科	Impact of Reconstruction Route on Postoperative Morbidity After Esophagectomy: Analysis of Esophagectomies in the Japanese National Clinical Database.	Ann Gastroenterol Surg. 2021.11	Original Article
29	森田　剛文	第二外科	A comprehensive strategy for perioperative care of pancreaticoduodenectomy according to the risk stratification by pancreatic fistula and delayed gastric emptying.	Asian journal of surgery 2022.01	Original Article
30	佐野　真規	第二外科	Differences in Vasa Vasorum Distribution in Human Aortic Aneurysms and Atheromas.	Angiology 2022.01	Original Article
31	村上　智洋	第二外科	Regulation of MRE11A by UBQLN4 leads to cisplatin resistance in patients with esophageal squamous cell carcinoma.	Molecular oncology 2021.04	Original Article
32	平松　良浩	第二外科	Function-Preserving Gastrectomy for Early Gastric Cancer.	Cancers (Basel). 2021.12	Original Article

33	平松　良浩	第二外科	Significance of the Glasgow prognostic score for short-term surgical outcomes: A nationwide survey using the Japanese National Clinical Database.	Ann Gastroenterol Surg. 2021.09	Original Article
34	坊岡　英祐	第二外科	Evaluation of clinical validity of an S-1 dosage formula based on renal function using data of the SPIRITS and the G-SOX trials.	Gastric cancer 2022.03	Original Article
35	坊岡　英祐	第二外科	Impact of Immune-related Adverse Events on Nivolumab Efficacy in Patients With Upper Gastrointestinal Cancer.	In Vivo. 2021.08	Original Article
36	坊岡　英祐	第二外科	Short-term Outcomes of Robot-assisted Minimally Invasive Esophagectomy Compared With Thoracoscopic or Transthoracic Esophagectomy.	Anticancer research 2021.09	Original Article
37	坊岡　英祐	第二外科	Whole exome sequencing and deep sequencing of esophageal squamous cell carcinoma and adenocarcinoma in Japanese patients using the Japanese version of the Genome Atlas, JCGA.	Esophagus 2021.10	Original Article
38	根木　宏明	脳神経外科	Familiarization with Contact Aspiration using Non-Penetrating of the Thrombus (CANP) Technique as the Initial Procedure for Acute Ischemic Stroke.	Journal of stroke and cerebrovascular diseases : the official journal of National Stroke Association 2021.11	Original Article
39	根木　宏明	脳神経外科	Intraarterial urokinase for thrombus migration after mechanical thrombectomy for large vessel ischemic stroke.	Interventional neuroradiology : journal of peritherapeutic neuroradiology, surgical procedures and related neurosciences 2021.12	Original Article
40	根木　宏明	脳神経外科	Use of flexible endoscopic aspiration for an intraventricular small floating clot with hemorrhage: a technical note.	Neurosurgical review 2021.08	Original Article
41	小泉　慎一郎	脳神経外科	A novel technique for fence-post tube placement in glioma using the robot-guided frameless neuronavigation technique under exoscope surgery: patient series.	Journal of Neurosurgery: Case Lessons 2021.12	Original Article
42	野崎　孝雄	脳神経外科	Increased anteroventral striatal dopamine transporter and motor recovery after subthalamic deep brain stimulation in Parkinson's disease.	Journal of Neurosurgery 2021.12	Original Article
43	井出　浩一郎	整形外科	Evaluation of the Central Sensitization Inventory Score in elderly adults with musculoskeletal examination.	Modern rheumatology 2021.07	Original Article

44	井出　浩一郎	整形外科	Sex differences between the relationship of trunk muscle mass and whole body sagittal plane alignment in older adults.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2022.01	Original Article
45	井出　浩一郎	整形外科	Spinal shortening osteotomy for adult tethered cord syndrome evaluated by intraoperative ultrasonography.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2021.05	Original Article
46	吉田　剛	整形外科	Delayed neuromonitoring alarm after scoliosis correction in Lenke type 4 adolescent idiopathic scoliosis.	BMJ case reports 2021.08	Original Article
47	吉田　剛	整形外科	Selective Angiography to Detect Anterior Spinal Artery Stenosis in Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Asian spine journal 2021.05	Original Article
48	古橋　弘基	整形外科	How does corrective fusion surgery for adult spinal deformities affect pelvic inclination in the supine position as the reference plane for THA?.	European journal of orthopaedic surgery & traumatology : orthopedie traumatologie 2021.11	Original Article
49	坂野　友啓	整形外科	Disc degeneration could be recovered after chemonucleolysis with condoliase.−1 year clinical outcome of condoliase therapy.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2021.06	Original Article
50	坂野　友啓	整形外科	Should L3 be selected as the lowest instrumented vertebra in patients with Lenke type 5C adolescent idiopathic scoliosis whose lowest end vertebra is L4?.	Journal of neurosurgery. Spine 2021.07	Original Article
51	星野　裕信	整形外科	Deviation of the centre of rotation of the femoral head in dysplastic hip joints.	European journal of orthopaedic surgery & traumatology : orthopedie traumatologie 2021.05	Original Article
52	星野　裕信	整形外科	Effect of central sensitization inventory on the number of painful sites and pain severity in a Japanese regional population cohort.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2021.06	Original Article
53	大江　慎	整形外科	Longer Screws Can Reduce the Stress on the Upper Instrumented Vertebra With Long Spinal Fusion Surgery: A Finite Element Analysis Study.	Global spine journal 2021.05	Original Article
54	大江　慎	整形外科	Risk Factors for Cervical Deformity After Posterior Cervical Decompression Surgery: A Multicenter Study.	Global spine journal 2021.08	Original Article
55	大和　雄	整形外科	Measuring Muscle Activity in the Trunk, Pelvis, and Lower Limb Which Are Used to Maintain Standing Posture in Patients With Adult Spinal Deformity, With Focus on Muscles that Contract in the Compensatory Status.	Global spine journal 2022.02	Original Article

56	大和　雄	整形外科	Planned two-stage surgery using lateral lumbar interbody fusion and posterior corrective fusion: a retrospective study of perioperative complications.	European spine journal : official publication of the European Spine Society, the European Spinal Deformity Society, and the European Section of the Cervical Spine Research Society 2021.08	Original Article
57	大和　雄	整形外科	Revision Surgery for a Rod Fracture with Multirod Constructs Using a Posterior-Only Approach Following Surgery for Adult Spinal Deformity.	Asian spine journal 2022.02	Original Article
58	大和　雄	整形外科	Simulation of Implant Impingement After Spinal Corrective Fusion Surgery in Patients with Previous Total Hip Arthroplasty: A Retrospective Case Series.	Spine 2021.04	Original Article
59	長谷川　智彦	整形外科	Impact of Spinal Correction Surgeries with Osteotomy and Pelvic Fixation in Patients with Kyphosis Due to Osteoporotic Vertebral Fractures.	Asian spine journal 2021.08	Original Article
60	有馬　秀幸	整形外科	Clinical Outcomes of Corrective Fusion Surgery from the Thoracic Spine to the Pelvis for Adult Spinal Deformity at 1, 2, and 5years Post-operatively.	Spine 2022.02	Original Article
61	有馬　秀幸	整形外科	Combination of Side-Bending and Traction Radiographs Do Not Influence Selection of Fusion Levels Compared to Either One Alone in Adolescent Idiopathic Scoliosis.	Global spine journal 2021.05	Original Article
62	有馬　秀幸	整形外科	Cost-effectiveness of Corrective Fusion Surgeries for Adult Spinal Deformities: A Comparison by Operative Method.	Spine 2021.09	Original Article
63	有馬　秀幸	整形外科	Importance of achieving Scoliosis Research Society-22r minimal clinically important difference for improving patient satisfaction after adult spinal deformity surgery.	Journal of neurosurgery. Spine 2021.07	Original Article
64	有馬　秀幸	整形外科	Improvements in physical functionality in elderly patients with spinal deformity after corrective fusion surgery: a gait analysis.	Journal of neurosurgery. Spine 2021.06	Original Article
65	花田　充	整形外科	Comparison Between the Simultaneous Reconstructions of the Anterior Talofibular Ligament and Calcaneofibular Ligament and the Single Reconstruction of the Anterior Talofibular Ligament for the Treatment of Chronic Lateral Ankle Instability.	The Journal of Foot & Ankle Surgery 2021.10	Original Article
66	花田　充	整形外科	Prognostic nutritional index as a risk factor for aseptic wound complications after total knee arthroplasty.	Journal of Orthopaedic Science 2021.09	Original Article
67	伊藤　泰介	皮膚科	Health-related quality of life in patients with alopecia areata: Results of a Japanese survey with norm-based comparisons.	The Journal of dermatology 2022.03	Original Article
68	栗原　和生	皮膚科	Epidermal CD8CD103 skin resident memory T cells in psoriasis plaques are reduced in number but remain in the basement membrane zone after topical application of corticosteroid and vitamin D3.	Journal of dermatological science 2022.03	Original Article

69	三宅　秀明	泌尿器科	Initial experience of robot-assisted radical nephrectomy in Japan: Single institutional study of 12 cases.	Asian journal of endoscopic surgery 2022.01	Original Article
70	三宅　秀明	泌尿器科	Prognostic significance of third-line treatment for patients with metastatic castration-resistant prostate cancer: comparative assessments between cabazitaxel and other agents.	International journal of clinical oncology 2021.09	Original Article
71	杉山　貴之	泌尿器科	Assessment of Blood Plasma Free-amino Acid Levels in Infertile Men.	In Vivo 2021.05	Original Article
72	本山　大輔	泌尿器科	Feasibility of interaortocaval clamping for renal artery during robot-assisted right partial nephrectomy: A propensity score-matching analysis.	Asian journal of endoscopic surgery 2022.02	Original Article
73	倉田　健太郎	眼科	Retinitis pigmentosa with optic neuropathy and COQ2 mutations: A case report.	American journal of ophthalmology case reports 2022.03	Original Article
74	立花　信貴	眼科	Maternal Uniparental Isodisomy of Chromosome 4 and 8 in Patients with Retinal Dystrophy: -Congenital Disorders of Glycosylation and -Related Retinitis Pigmentosa.	Genes 2022.02	Original Article
75	市川　新太郎	放射線科	An Intra-individual Comparison between Free-breathing Dynamic MR Imaging of the Liver Using Stack-of-stars Acquisition and the Breath-holding Method Using Cartesian Sampling or View-sharing.	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine 2022.03	Original Article
76	市川　新太郎	放射線科	Diagnostic performance and image quality of low-tube voltage and low-contrast medium dose protocol with hybrid iterative reconstruction for hepatic dynamic CT.	The British journal of radiology 2021.12	Original Article
77	市川　新太郎	放射線科	Distinction Between Hepatocellular Carcinoma and Hypervascular Liver Metastases in Non-cirrhotic Patients Using Gadoxetate Disodium-Enhanced Magnetic Resonance Imaging.	Canadian Association of Radiologists journal = Journal l'Association canadienne des radiologistes 2022.03	Original Article
78	市川　新太郎	放射線科	Transient Respiratory-motion Artifact and Scan Timing during the Arterial Phase of Gadoxetate Disodium-enhanced MR Imaging: The Benefit of Shortened Acquisition and Multiple Arterial Phase Acquisition.	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine 2021.09	Original Article
79	土屋　充輝	放射線科	MRI-based radiomics analysis for differentiating phyllodes tumors of the breast from fibroadenomas.	European radiology 2022.01	Original Article
80	八木原　正浩	麻酔科蘇生科	Epidural space "ballooning" during local anaesthetic injection in infants and children: an ultrasound observational study.	Acta Anaesthesiologica Scandinavica 2021.06	Original Article
81	増永　陽平	周産母子センター	ACAN biallelic variants in a girl with severe idiopathic short stature.	Journal of human genetics 2022.03	Original Article

82	増永　陽平	周産母子センター	Parthenogenetic mosaicism: generation via second polar body retention and unmasking of a likely causative PER2 variant for hypersomnia.	Clinical epigenetics 2021.04	Original Article
83	増永　陽平	周産母子センター	Primary ovarian insufficiency in a female with phosphomannomutase-2 gene (PMM2) mutations for congenital disorder of glycosylation.	Endocrine journal 2021.05	Original Article
84	青木　善孝	集中治療部	Intraoperative Remifentanil Dosage in Surgery for Adolescent Idiopathic Scoliosis Does Not Increase Postoperative Opioid Consumption When Combined With Epidural Analgesia: A Retrospective Cohort Study.	Cureus 2021.08	Original Article
85	内藤　隆文	薬剤部	Simple Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry Method for Quantitation of Total and Free Aprepitant and Its Active N-Dealkylated Metabolites in Human Plasma.	Therapeutic drug monitoring 2021.06	Original Article
86	栗田　忠代士	手術部	Influence of hemorrhage and subsequent fluid resuscitation on transcranial motor-evoked potentials under desflurane anesthesia in a swine model.	Journal of clinical monitoring and computing 2022.02	Original Article
87	河崎　秀陽	ナノスーツ開発研究部	Highly Sensitive and Quantitative Diagnosis of SARS-CoV-2 Using a Gold/Platinum Particle-Based Lateral Flow Assay and a Desktop Scanning Electron Microscope.	Biomedicines 2022.02	Original Article
88	新村　和也	腫瘍病理学講座	Identification and characterization of primary cilia-positive salivary gland tumours exhibiting basaloid/myoepithelial differentiation.	The Journal of pathology 2021.08	Original Article
89	前川　真人	臨床検査医学講座	Precision cancer genome testing needs proficiency testing involving all stakeholders.	Scientific reports 2022.01	Original Article
90	柄山　正人	腫瘍センター	Association of the Geriatric Nutritional Risk Index With the Survival of Patients With Non-Small Cell Lung Cancer After Nivolumab Therapy.	JOURNAL OF IMMUNOTHERAPY 2022.01	Original Article
91	柄山　正人	腫瘍センター	Association of the Geriatric Nutritional Risk Index with the survival of patients with non-small-cell lung cancer after platinum-based chemotherapy.	BMC pulmonary medicine 2021.12	Original Article
92	柄山　正人	腫瘍センター	Increased serum cholesterol and long-chain fatty acid levels are associated with the efficacy of nivolumab in patients with non-small cell lung cancer.	Cancer immunology, immunotherapy 2022.01	Original Article
93	柄山　正人	腫瘍センター	Simple method for detecting idiopathic interstitial pneumonias by measuring vertical lung length on chest X-ray.	Scientific reports 2021.04	Original Article
94	山田　康秀	臨床腫瘍学講座	Present status and perspective of perioperative chemotherapy for patients with resectable pancreatic cancer in Japan.	Global health & medicine 2022.02	Original Article

計94件

（注）[1]　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec（オンライン）

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	須田　隆文	第二内科	日本呼吸器学会会員における大学院進学に関する最近の動向	日本呼吸器学会誌	Original Article
2	岩鬼 裕之	第二内科	抗甲状腺薬はバセドウ病合併妊娠後期の母児間FT4値を用量依存的に乖離させる	日本内分泌学会雑誌	Original Article
3	古川　省悟	第三内科	虚血性心疾患合併関節リウマチの臨床的特徴に関する後方視的検討	中部リウマチ	Original Article
4	飯嶋　重雄	小児科	浜松医科大学医学部附属病院周産母子センターにおける18年間の新生児診療実績と診療体制の推移	浜松医科大学小児科学雑誌	Original Article
5	守内 大樹	第一外科	急性A型大動脈解離術後に人工血管高度屈曲による溶血性貧血をきたした1例	日本心臓血管外科学会雑誌	Original Article
6	片橋　一人	第二外科	静脈血栓塞栓症患者に対する低用量エドキサバンの有用性	静脈学	Original Article
7	菊山　薫	脳神経外科	A Trochlear Nerve Schwannoma with Spindle Cells detected by Cerebrospinal Fluid Cytology following Severe Hydrocephalus : A Case Report and Literature Review水頭症にて発症し髄液細胞診にて紡錘形細胞が検出された滑車神経鞘腫の1手術例	脳神経外科ジャーナル	Original Article
8	吉田 剛	整形外科	【脊柱変形矯正の進歩】成人脊柱変形に対する矯正固定術の適応と合併症対策	整形・災害外科	Original Article
9	一ノ瀬 初美	整形外科	カニクイザルの変形性膝関節症モデルに対する多血小板血漿投与後の軟骨容積の変化	日本整形外科学会雑誌	Original Article
10	井出 浩一郎	整形外科	ロコモ提唱から14年-縦断的研究の成果-　ロコモ悪化の予測　Toei study	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	Original Article
11	村上 裕樹	整形外科	異なる方針で治療を行った両側大腿骨ステム遠位横骨折の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	Original Article
12	辻岡　徹	整形外科	人工股関節術前および術後6か月の疼痛と痛みの破局的思考の関係	Hip Joint	Original Article

13	星野　裕信	整形外科	人工股関節置換術を予定した変形性股関節症患者における中枢感作の評価と術後の痛みの関連	日本人工関節学会誌	Original Article
14	花田 充	整形外科	人工膝関節全置換術における大腿骨および脛骨コンポーネント設置位置と膝キネマティックスが術後関節可動域に及ぼす影響	日本整形外科学会雑誌	Original Article
15	花田 充	整形外科	前十字靱帯再建術後の変形性膝関節症に関する検討	日本臨床スポーツ医学会誌	Original Article
16	大村 威夫	整形外科	中等症肘部管症候群症例における術後予後因子の検討	末梢神経	Original Article
17	紫藤 洋二	整形外科	粘液種の画像所見	日本整形外科学会雑誌	Original Article
18	星野 裕信	整形外科	病態と脊柱アライメントを考慮した股関節治療戦略	日本整形外科学会雑誌	Original Article
19	古橋 弘基	整形外科	浜松市における乳児股関節健診の現状と課題　推奨項目導入後5年間経過して	日本小児整形外科学会雑誌	Original Article
20	長谷川 智彦	整形外科	末梢神経および脊髄に起因する疾患におけるリハビリテーション治療　脊髄髄内腫瘍術後神経障害回復の過程	末梢神経	Original Article
21	青沼 宏亮	眼科	Escherichia coliが原因と考えられる結石性腎盂腎炎に合併した内因性眼内炎の2例	眼科臨床紀要	Original Article
22	藤井 爽平	眼科	PDE6A遺伝子変異による網膜色素変性症の1例	臨床眼科	Original Article
23	小野 薫	眼科	マイラゲル除去中に強膜穿孔をきたした1例	眼科臨床紀要	Original Article
24	荒川あかり	眼科	術中調節糸法で下直筋後転鼻側移動術にファーデン法を併用した一例	眼科臨床紀要	Original Article
25	小野薫	眼科	片眼の蜂窩織炎様症状を呈した両眼性網膜芽細胞腫の1例	眼科臨床紀要	Original Article
26	中西　啓	耳鼻咽喉科	マウス蝸牛組織における自然免疫応答の検討	Otology Japan	Original Article
27	中西　啓	耳鼻咽喉科	当院における小脳橋角部腫瘍例の聴力像の検討	Audiology Japan	Original Article
28	中西　啓	耳鼻咽喉科	頭蓋内感染を繰り返した側頭骨内脳瘤例	耳鼻咽喉科臨床	Original Article
29	伊東　宏晃	産婦人科	分娩誘発において頸管熟化処置を必要とする妊娠末期(妊娠37週以上41週未満)の妊婦を対象としたジノプロストン腟内留置用製剤(PROPESS)の第Ⅲ相試験成績	産科と婦人科	Original Article
30	田中 和樹	臨床薬理内科	カルボプラチンに伴う悪心・嘔吐に対するオランザピン併用制吐療法の確立	臨床薬理の進歩	Original Article

31	金子花観	リハビリテーション部	グルココルチコイド療法に伴うステロイド筋症併発に対し、運動療法により運動耐容能が向上した心臓サルコイドーシス患者の一症例	理学療法学	Original Article	計31件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・　手順書の主な内容 ア　倫理委員会の役割・責務等 イ　倫理委員会の業務 ウ　倫理委員会の運営 エ　倫理委員会における審査 オ　倫理委員会事務局の業務	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・　規定の主な内容 ア　利益相反マネジメントの目的・対象・対象者 イ　利益相反マネジメント委員会の設置・審議事項・組織 ウ　利益相反マネジメントのための調査方法 エ　審議、勧告、決定等の手続き オ　臨床研究に関する調査等 カ　研修・啓発活動	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年5回

(注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年11回

・研修の主な内容

ア　臨床研究の倫理と本学の臨床研究サポート体制
イ　「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の概略について
ウ　臨床研究と知的財産、産学連携に関するリスクマネジメント
エ　臨床研究方法論入門
オ　臨床試験の計画と準備、実施医療機関の組織と運用
カ　「臨床研究に必要な統計の基礎知識」

(注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

小児科プログラム、皮膚科プログラム、精神科プログラム、放射線科プログラム、病理プログラム、臨床検査プログラム、内科プログラム、家庭医療プログラム、整形外科プログラム、産婦人科プログラム、眼科プログラム、耳鼻咽喉科・頭頸部外科プログラム、泌尿器科プログラム、脳神経外科プログラム、麻酔科プログラム、救急科プログラム、形成外科プログラム、リハビリテーション科プログラム、外科プログラム、口腔外科専門医取得プログラム

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	91　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
杉本　健	第一内科	教授	29年	
須田　隆文	第二内科	教授	36年	
前川　裕一郎	第三内科	教授	27年	
山末　英典	精神科神経科	教授	24年	
宮入　烈	小児科	教授	27年	
椎谷　紀彦	第一外科	教授	38年	
竹内　裕也	第二外科	教授	30年	
黒住　和彦	脳神経外科	教授	25年	
松山　幸弘	整形外科	教授	34年	
本田　哲也	皮膚科	教授	22年	
三宅　秀明	泌尿器科	教授	29年	
堀田　喜裕	眼科	教授	39年	
三澤　清	耳鼻咽喉科	教授	27年	
伊東　宏晃	産科婦人科	教授	36年	
五島　聡	放射線科	教授	22年	
中村　和正	放射線科	教授	34年	
中島　芳樹	麻酔科蘇生科	教授	35年	
増本　一真	歯科口腔外科	教授	28年	(歯科医師免許：28年)
山内　克哉	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	准教授	28年	
中川　雅裕	形成外科	特任教授	31年	
乾　直輝	臨床薬理内科	教授	29年	
前川　真人	検査部	教授	40年	
馬場　　聡	病理部	准教授	37年	
吉野　篤人	救急部	教授	36年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①感染管理　②急変の予兆と急変対応　③褥瘡予防ケア　④認知症看護　⑤看護研究　⑥看護倫理　⑦医療安全 ・研修の期間・実施回数 ①4/7　②10/17 10/22 11/2 11/４ 12/5 12/9 ③4/8　7/29 8/１　④6/17 6/20　8/2　8/3 ⑤7/6　7/25　8/29　10/7　11/15 12/20　⑥4/5　8/23　9/13　9/14　11/9 11/11 ⑦4/7　7/8　7/11 ・研修の参加人数 ①90人　②14人 14人 47人 47人 40人 40人 ③90人 40人　40人　④35人 35人 53人　35人 ⑤34人 6人 4人 4人 4人 4人 ⑥81人 16人 31人 32人 16人　16人 ⑦90人 40人 40人
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①入退院支援研修　②災害看護 ・研修の期間・実施回数 ①7/22 １１/8　11/10　12/18　②7/29　8/1 ・研修の参加人数 ①9人 ７人 2人 9人　②40人 40人
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容　がん看護教育コース(8回) ・研修の期間・実施回数　7/19　8/16　9/20　10/20　11/15　12/20　1/17　2/21 ・研修の参加人数　13人　13人　13人　13人　13人　13人　13人　13人

(注) 1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療

従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　　(2)．現状
管理責任者氏名	病院長　松山　幸弘
管理担当者氏名	総務課長：根木忠広／人事課長：髙井修逸／医事課長：山口誠 薬剤部長：川上純一／放射線部長：中村和正／手術部長・医療機器管理部長：中島芳樹 看護部長：佐々木菜名代／診療情報管理部長：前川裕一郎

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	全科電子カルテを導入。カルテは、一患者1ＩＤとし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。診療録の院外持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課・医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課･医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課･医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課･医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課･医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課・感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課・感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課・感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課・医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課・感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課・診療情報管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課・診療情報管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課・医療安全管理室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課・医療安全管理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課・医療安全管理室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課・医療安全管理室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課・医療安全管理室	
		職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課・医療安全管理室	
		管理者が有する権限に関する状況	医事課・人事課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	企画評価課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画･現状の別	1. 計画　　②. 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長(総務･教育担当)　足立　充
閲覧担当者氏名	総務課長　根木　忠広
閲覧の求めに応じる場所	･総務課情報公開室
閲覧の手続の概要 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。請求を受理してから、30日以内(請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。)に開示･不開示を決定し、請求者に通知する。その後、請求者からの開示の実施申出を受け開示を実施する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画･現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： １安全管理に関する基本的な考え方 ２医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 ３医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針 ４事故報告の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ５医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ６職員と患者との間の情報共有に関する基本方針 ７患者からの相談への対応に関する基本方針 ８その他医療安全の推進のための必要な基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ (有)・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理体制の確保に関すること 医療事故等の把握、分析、対処改善、評価及び見直しに関すること 医療に係る安全管理のための職員の研修に関すること その他の医療の安全管理に関すること	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　7　回
・ 研修の内容（すべて）： 【医療安全講習会】 ２回（全職員対象） 【職種・部署別】 新採用職員ガイダンス：1回、研修医：1回、新採用看護師研修：2回 看護師採用時研修：e-learning、看護助手採用時研修：e-learning 、 看護助手研修：1回、静脈注射院内認定看護師研修：e-learning 新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning 看護職員（育休復帰者）：e-learning	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 収集した情報をもとに、A)外部参加型事例調査、B）院内事例調査、C）M&Mカンファレンス、D)部署内検証レビュー、E)医療安全管理室のカンファレンス、F)医師並びに看護師GRMが検証、G)検証不要に分類し必要なスタッフで事例検証し、問題点を分析し、改善策を立案し、現場スタッフにフィードバックしている。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： １．院内感染対策に関する基本的な考え方 ２．院内感染対策に関する管理組織機構 ３．従業者研修に関する基本方針 ４．感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ５．アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 ６．患者等への情報提供と説明に関する基本方針 ７．感染対策に関する地域医療機関との連携 ８．その他院内感染対策及び抗菌薬適正使用推進のための基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： １．院内感染対策の検討・推進 ２．院内感染防止の対応及び原因究明 ３．院内感染等の情報収集及び分析（抗菌薬の使用状況、分離菌種などの情報を含む） ４．院内感染防止策及び抗菌薬適正使用等に関する従業者の教育・研修 ５．従業者の感染管理 ６．その他院内感染対策に関する事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 24 回
・ 研修の内容（すべて）： 【院内感染対策講習会】 ３回（全職員対象） 【職種・部署別】 研修医ガイダンス 1回（感染対策実習：手洗い、安全装置付き針の取り扱い） 新採用・中途採用職員への感染対策講習：計357 名（医師138 名、研修医 36 名、看護師 95 名、コメディカル 68 名、事務 20 名） 受託実習生感染対策講習： 計 7部署　71 名　（リハビリテーション部、放射線部、救命救急士、視能訓練士、医療福祉支援センター、医療機器管理部、栄養部） 部署別感染対策勉強会：3 回（NICU、リハビリテーション部、小児科） 【委託・派遣業者】 委託・派遣職員感染対策講習： 10 回（清掃業者、看護助手）	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ICTラウンド（週1回）、病棟環境ラウンドおよびサニタリーラウンドによる感染対策の実施状況および環境整備の確認 ・耐性菌発生状況の把握とアウトブレイク介入基準に基づく介入、および血液培養陽性患者の把握と評価 ・広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬使用患者のモニタリングと抗菌薬適正使用の評価 ・感染対策に関する介入を要した事例の部署別ミーティングの実施 ・院内Web内の感染対策ホームページへの掲載、ICT NEWSの発行、感染対策情報の回覧等による感染情報の提供 ・院内感染対策ポケットマニュアルの配布 ・新型コロナウイルス感染症対策会議の開催	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　1　回
・　研修の主な内容： 医薬品の副作用、周術期の薬剤投与	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　　（(有)・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 年1回、チェックシートによる確認	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（(有)・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・菌状息肉症に対するアドセトリスの使用 ・子宮体癌術後の乳び腹水症に対するオクトレオチドの使用 ・視床出血を反復する脳海綿状血管腫に対するヘマンジオルの使用 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・薬剤師による処方監査・処方確認および入院患者への処方確認時に使用目的を確認し、必要に応じて疑義照会および処方確認を実施している。 ・病棟担当薬剤師が病棟での診療科カンファレンスに参加し患者の薬物治療について情報を収集し、適応外使用の可能性がある場合には医薬品安全管理室や医薬品情報管理室薬剤師とその都度情報を共有している。 ・適応外使用の予定がなされた場合、診療倫理委員会事務局から医薬品情報管理室へ個々の適応外使用のリスクについて相談する体制を取っている。医薬品情報管理室から病棟担当者や調剤室など関連する部門へ適応外使用の情報を共有している。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 109 回
・　研修の主な内容： ７種の機種（本院は診療用粒子線照射装置を持たず）を含む医療機器の有効性、使用法、保守点検の方法、不具合発生時の報告手順、法令で定めるコンプライアンスの遵守事項の確認を中心に行った。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（(有)・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 機器に添付されている使用・保守説明書に記載された点検項目に従い点検を行った。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・　その他の改善のための方策の主な内容： ①呼吸サポートチーム（RST）が中央診療施設、病棟の呼吸器全般（条件、作動状況など）を巡回監視した。活動は１回/週、定例会議１回/月 ②病棟等で使用する患者モニター、人工呼吸器の動作状況の確認のため、１回/日（日曜日以外）MEが巡回監視を行った。 ③当直担当者を配置し、ICUを中心に医療機器全般の対応を行った。 ④待機当番を配置し、通常業務の時間外の対応や夜間祝日の緊急手術や緊急カテーテル等への対応を行った。 ⑤直接、MEが関わらなかったインシデントに対しても情報を収集し、積極的にインシデントレポートを提出し、スタッフ間で情報の共有を行った。 ⑥COVID患者に対してしっかりしたPPEをした上で、ECMOやHDへの対応を行った。 ⑦医療機器回収専門スタッフを配置し、使用後の医療機器を効率よく運用できるようにした。 ⑧新規医療機器購入時、仕様策定委員のメンバーにMEスタッフ1人以上を加えることとした。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

①　医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・責任者の資格（(医師)・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 「浜松医科大学医学部附属病院医療安全管理規程」を定め統括しています。	
②　専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（ 3 名）・無
③　医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・情報の整理は薬剤部医薬品情報管理室にて実施している。 ・情報の周知は添付文書改訂の通知を定期的に実施している。また医薬品安全性情報等の通知および当該医師への伝達、DI ニュースの発行などを必要に応じて実施している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・未承認薬等による治療が必要になった場合、治療を実施する医師は薬剤部医薬品安全管理室あるいは製剤室に照会する。 ・病棟などで薬剤師が確認した際は医師に疑義照会などを実施している。 ・院内製剤は薬剤管理委員会（未承認新規医薬品の担当部門）にて承認を受ける。 ・担当者の指名の有無（(有)・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部　，職種　薬剤師　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）	
④　医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無　） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容	

：各診療科より3冊ずつピックアップしたサンプル調査を実施（サンプル対象は、手術を実施しICUを経過した比較的重症度が高いと思われる症例から抽出）、医療者の同席率とIC後の反応の記録について調査し、診療情報管理委員会にて報告を行った。

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

全症例について、退院時要約、手術記録、入院診療計画書を確認。さらに多職種（医師、看護師、薬剤師、事務）による診療記録監査（入院診療計画書、診療録、看護記録、薬剤記録、退院時要約、手術記録、説明同意書）をサンプル調査にて実施。診療情報管理委員会にて報告を行った。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	(有)・無

・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 10 ）名

うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 5 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 0 ）名

うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 2 ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること。
医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。
リスクマネージャーとの連絡調整に関すること。
医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。
医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。
医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。
医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。
医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。
病院医療安全管理委員会の庶務に関すること。
医療安全に資する診療の状況の把握及び職員の医療安全の認識の状況の確認に関すること。

【モニタリングの具体例】
・放射線診断重要レポートに対し検査を依頼した医師が対応したかのモニタリング
・中心静脈挿入時のチェックリスト
・コードブルー発生件数

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 8 件）、及び許可件数（ 8件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
・活動の主な内容：
病院で行う新規医療技術の導入の申請に対し倫理的・科学的妥当性について審査、確認及び事後検証を行う。
・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
・活動の主な内容：
当院では薬剤部・薬剤管理委員会を未承認新規医薬品等の担当部門としており、「当院で使用したことのない医薬品であって、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律における承認または認証を受けていないもの」の導入に際して、以下の項目について審査を行っている。
・当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品とを比較した場合の優位性（予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む。）
・未承認新規医薬品等の使用条件（使用する医師又は歯科医師の制限等）
・当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法
（血液検査の実施、調査票の配布等）
・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 263 件
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年　63　件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

収集した情報をもとに、A)外部参加型事例調査、B）院内事例調査、C）M&Mカンファレンス、D)部署内検証レビュー、E)医療安全管理室のカンファレンス、F)医師並びに看護師GRMが検証、G)検証不要に分類し、必要なスタッフで事例検証、問題点を分析、改善策を立案し現場スタッフにフィードバックしている。

⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有 (病院名：　金沢大学附属病院　）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有 (病院名：　山梨大学医学部附属美病院　）・無）

・技術的助言の実施状況

助言１：高難度新規医療技術評価委員会は多職種構成が望まれる。

現　状：評価部門は、医師、看護師、薬剤師を含む多職種で構成することで対応している。

改　善：必要に応じて臨床工学技士等の意見も参考とする。

助言２：放射線画像で重要と考える所見の基準を統一すると良い。

現　状：読影を担当する放射線科医師との話し合いの結果、基準を設けないこととしている。

改　善：現状の方法を継続し、重要レポートへの対応状況のモニタリングを継続する。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全患者相談窓口：医療安全管理室

責任者：医療安全管理室長

担当者：ゼネラルリスクマネージャー（ＧＲＭ）及び医事課医療安全推進係長

⑫　職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全講習会】

２回（全職員対象）

【職種・部署別】

新採用職員ガイダンス：1回、研修医：1回、新採用看護師研修：2回

看護師採用時研修：e-learning、看護助手採用時研修：e-learning 、 看護助手研修：1回、静脈注射院内認定看護師研修：e-learning 新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning 看護職員（育休復帰者）：e-learning

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者　令和4年1月25日　2021年度特定機能病院管理者研修（継続5時間） 医療安全管理責任者　令和4年1月25日　2021年度特定機能病院管理者研修（継続5時間） 医薬品安全管理責任者　令和4年1月19日　2021年度特定機能病院管理者研修（継続5時間） 医療機器安全管理責任者　令和4年1月19日　2021年度特定機能病院管理者研修（継続5時間）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 令和元年６月に日本医療機能評価機構の病院機能評価　「一般病院３　<3rdG:Ver.2.0>」を受審した。 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 本院のホームページに認定証を掲載し、日本医療機能評価機構のホームページに掲載されている審査結果が閲覧できるようリンクを貼ってある。 ・評価を踏まえ講じた措置 Ｃ評価とされた10項目は改善報告を行い令和２年９月１８日及び令和３年６月２９日に再審査を受審して令和３年７月３０日付けで「一般病院３　＜３rdG:Ver.2.0>」の認定をうけた。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 １．医師免許を有している者 ２．医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 ３．病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ４．本学及び本院の理念に基づいた病院運営を遂行できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 浜松医科大学ホームページにおいて公表

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 浜松医科大学ホームページにおいて公表	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
山本　清二	浜松医科大学理事		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第1 号に基づく学長が指名する理事又は副学長	有・無
渡邉　裕司	浜松医科大学理事	○	医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第1 号に基づく学長が指名する理事又は副学長	有・無
須田　隆文	浜松医科大学医学部内科学第二講座（内分泌・呼吸・肝臓内科学分野）教授		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第2 号に基づく教授及び准教授で構成される会議からの選出	有・無
堀田　喜裕	浜松医科大学医学部眼科学講座教授		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第3 号に基づく病院運営企画室会議からの選出	有・無
紀平　幸一	静岡県医師会長		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第4 号に基づく学長が委嘱する学外有識者 医療・保健・福祉全般に豊富な知	有・無

			見を有しているため	
御室 健一郎	浜松いわた信用金庫 会長		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第4 号に基づく学長が委嘱する学外有識者 法人経営や地域の経済・社会について豊富な知見を有しているため	有・(無)
毛利　博	静岡県病院協会長		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3 条第4 号に基づく学長が委嘱する学外有識者 医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有しているため	有・(無)

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
　病院運営における中期目標、中期計画に関する事項（進捗状況のモニタリングを含む）。
　病院予算、業務実績報告に関する事項。
　その他病院運営に関する事項。
・審議の概要の従業者への周知状況
　診療科長会議で報告を行っている。院内ホームページに議事内容を掲載している。
・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
松山　幸弘	〇	医師	病院長
堀田　喜裕		医師	副病院長（渉外・広報担当）
須田　隆文		医師	副病院長（教育・研修担当）
中島　芳樹		医師	副病院長（運営・管理担当）
竹内　裕也		医師	副病院長（リスクマネジメント担当）
佐々木菜名代		看護師	副病院長（患者サービス担当）
杉本　健		医師	第一内科主任診療科長
前川　裕一郎		医師	第三内科主任診療科長
椎谷　紀彦		医師	第一外科主任診療科長
黒住　和彦		医師	脳神経外科診療科長
三宅　秀明		医師	泌尿器科診療科長
伊東　宏晃		医師	産科婦人科診療科長
前川　真人		医師	検査部長
木村　通男		医師	医療情報部長
川上　純一		薬剤師	薬剤部長
増本　一真		歯科医師	歯科口腔外科診療科長
長川　武司		事務	事務局次長（病院担当）

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・(無)　） ・　公表の方法 ・　規程の主な内容 　　病院長は、病院の業務を総括する。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 　　副病院長（渉外・広報担当） 　　副病院長（教育・研修担当） 　　副病院長（運営・管理担当） 　　副病院長（リスクマネジメント担当） 　　副病院長（患者サービス担当） 　　病院長特別補佐（経営戦略担当） 　　病院長特別補佐（感染対策担当） ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 　毎年1回開催される以下の会議・勉強会・研修会等に職員を参加させ、病院のマネジメントを担う人員の育成に努めている。 　・近畿・中部地区病院経営企画担当事務職員勉強会 　・近畿・中部地区附属病院経営担当課長等会議 　・国立大学附属病院係長クラス勉強会 　・国立大学附属病院契約実務担当者ワークショップ 　・国立大学附属病院若手職員勉強会

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無

・監査委員会の開催状況：年 2 回

・活動の主な内容：

本院の安全管理体制について外の委員も含めた委員で監査・評価を実施する。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ (有)・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ (有)・無 ）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）

・公表の方法：

病院ホームページにおいて公表している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
小島 崇宏	大阪Ａ＆Ｍ法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
桑原 允嗣	静岡県立高等学校元副校長		医療を受ける者	有・(無)	2
大磯 義一郎	国立大学法人浜松医科大学		法律に関する識見を有する者	(有)・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

3．その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 内部統制システム推進責任者（病院長）は、附属病院の業務における内部統制システム（法令等に適合するための体制及びその他業務の適正を確保するための体制）の整備及び運用を推進するとともに、その整備及び運用状況について、内部統制担当役員に定期的に報告を行うものとしており、内部統制担当役員は、内部統制上の重大な問題を発見し、又は報告を受けたときは、速やかに適切な対処を行うとともに、内部統制最高管理責任者（学長）に報告し、併せて再発防止措置を講ずるものとしている。また、内部統制担当役員から内部統制システムの運用状況が、定期的に役員会に報告され、内部統制システムの整備と継続的な見直しが行われている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 浜松医科大学ホームページにおいて公表

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
　国立大学法人法に基づき、大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会を置いている。当協議会は、外部有識者の諮問会議の性質を有するもので、大学法人経営の大きなウエイトを占める附属病院の管理運営に関しても多くの意見・助言等を受けている。

・ 会議体の実施状況（　年 4　回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無　）（　年 4　回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無　）

・ 公表の方法
　規程は公表していないが、運営の透明性を担保するため、協議会の開催状況、審議内容、外部委員の意見等を大学ホームページで公開している。

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人浜松医科大学経営協議会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長（○を付す）	利害関係
今野　弘之	学長	○	有
山本　清二	理事（教育・産学連携担当）		有
渡邉　裕司	理事（企画・評価担当）		有
河本　雅弘	理事（財務担当）		有
斉藤　薫	理事（経営担当）		有
松山　幸弘	副学長（病院担当）		有
岡部 比呂男	公益財団法人　浜松交響楽団理事長		無
猿田　享男	慶應義塾大学名誉教授		無
紀平　幸一	一般社団法人　静岡県医師会長		無
布村　幸彦	公益財団法人　東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会組織委員会副事務総長		無
正木　治恵	千葉大学大学院看護学研究院教授		無
御室　健一郎	浜松磐田信用金庫会長		無
門田　守人	日本医学会連合会長		無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年　0　件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 医療安全ニュース等において周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無

・情報発信の方法、内容等の概要

（１）広報誌による情報発信
①病院案内（年1回発行）
②「はんだ山の風」（年4回発行）
③医療福祉支援センター広報誌「かけはし」（年4回発行）

（２）市民公開講座等による情報発信
①　浜松医科大学主催「公開講座」
②　浜松医科大学主催　静岡がん治療フォーラムを開催
③　静岡肝疾患診療連携拠点病院主催で「市民公開講座」（年3回）を実施している。

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

(1)緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、呼吸ケアサポートチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチームによるチーム医療を提供している。

(2)感染対策室、医療安全管理室、医療福祉支援センター（がん相談、肝疾患相談、難病相談、退院支援）等多職種が参加した診療・ケアの実施している。